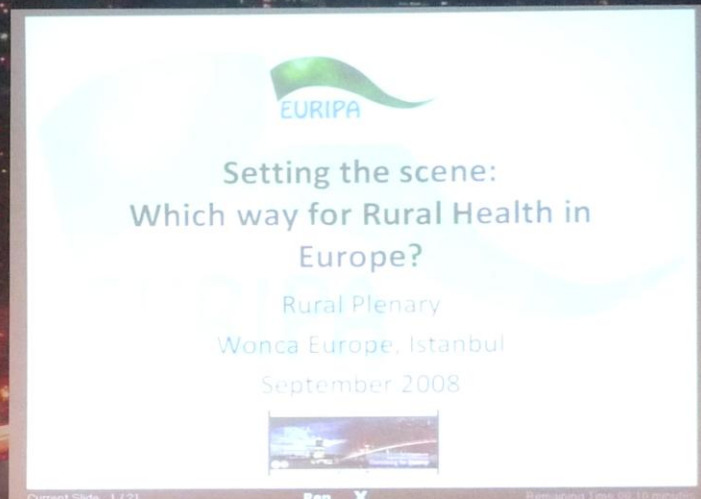




# WONCA EUROPE 2008 Istanbul Conference

04 - 07 September 2008  
Istanbul Convention & Exhibition Center  
Military Museum & Cultural Center  
Istanbul - TURKEY



# トルコにおける家庭医療の展開

日本プライマリ・ケア学会  
理事・広報委員長  
板東 浩

日本では、現在プライマリ・ケア (PC) 医や総合医療の養成が話題となっている。日本の PC 学会は世界家庭医学会 (略称 WOCNA) の一員で、WOCNA は数年ごとに世界大会や地域大会を開催している。今回、筆者はトルコで開催された欧州 WOCNA 大会に参加し、同国で効率的に家庭医を養成する制度を知り、医療現場での診療・教育を垣間見る機会を得たので報告したい。

## トルコの概要と 日本との関係

トルコ共和国はアジアとヨーロッパの接点に位置し、歴史的にも東西文化が融合する地だ。多数の世界遺産があり、観光の聖地としても知られる。国土面積は日本の2倍強、人口は約7000万人。大都市イスタンブールには、ボスポラス海峡が通り、まさに「ヨーロッパとアジアの架け橋」である。1890年、トルコ軍艦エルトゥール号が、嵐のため和歌山沖で沈没し、地域住民が誠心誠意救助した。その後、義援金で墓碑と遭難追悼碑が建立され、両国の友好関係が深まっていく。さらに、個人的に駆けつけた山田寅次郎氏が全国行脚して多額の募金を集め、トルコに届けると、「トルコに残り、士官たちに日本の精神と日本語を教えたい」と請われ、同国の士官学校でエリート教育を受ける。このなかに、建国の父であるトルコ共和国初代大統領ケマル・アタテュルクがいた。彼は今も国民に敬愛され、学会や病院でもよく紹介される。長年日本人が大切にされるのは、このような事情がかかわっているのだから。

## WONCA大会

欧州大会は、08年9月4～7日に

Istanbul Convention & Exhibition Centerで開催された。開会式では、4500人以上の参加者を歓迎し、東西の国々や文化、医療の架け橋になる意義が強調された。

当大会のテーマは「距離を超えて (overcoming the distances)」である。同タイトルで基調講演を担当したのは、トルコの Mehmet Ungan 氏。欧州 WONCA の協力により、トルコの家家庭医療が進化途上である状況が発表された。その戦略が非常に魅力的であったので、詳細を次項で示したい。

## トルコ医療の概要

トルコの人口は7059万人であり、日本の約6割である。医師数は日本の4割程度で、人口に占める医師数は先進国のなかでは低い。公立病院で働く医師は、制度上、厚生省 (Ministry of Health, MoH) に所属する。同国の医療の概要についてまとめた (表)。

【表】トルコの医療の概要

医師数	10万6,000人
公立病院勤務の医師	6万1,000人
各種の各科専門医	4万7,000人
FP (家庭医、専門資格あり)	1,900人
GP (総合医、専門資格なし)	3万5,000人
医学部の学生	2万5,000人



【図】トルコにおける家庭医 (FP) の養成システム



**FP養成プログラム**

トルコでは、医学部を卒業すると医師となり、GP (general practitioner) と呼ばれる。総合医としてどこでも診

医学学校は五十数校あり、そのなかで家庭医療 (Family Medicine) 講座を有するのは41校、教授や准教授等スタッフは91名である。現時点で、家庭医療の専門資格 (Board) を有する家庭医 (Family physician, FP) は1900人にのぼる。

いずれの国でも、大学に家庭医療講座がつくられると、基盤が確立されていく。回国では、家庭医療が誕生して年月が浅く、infancyレベルから次第に成長していく途上にあると言えよう。

療でき、特にトルコの中東部など、地域やへき地でパワフルな存在である。しかし、都市部でGPが活躍するのはやや難しく、一因として専門医資格を得ていないことが挙げられる。

一方、家庭医療講座が増え、専門医の取得者が増えてきている。しかし、多忙なGPが家庭医資格を取得するために、わざわざレジデンシーに入ることは、実際には難しい。

そこで、厚生省によるプライマリ・ケア推進計画が発足した。換言すれば、FPを効率的に養成するプログラムだ。GPが日常診療をしながら、集中講義やITを利用したレクチャーを受け、家庭医資格を取得できるのである。

左上の図で、本計画のポイントをまとめた。対象者は、医学部卒業生やすでに実地医家として診療している医師だ。目的は、研修で力を蓄え、家庭医の資格を有して活躍することである。医学部の既卒者は、Level1からLevel3まで自由に選択できる。また、医学部の卒業後、ただちに家庭医療コースに入ることもできる。

**FPを目指す医師の増加**

受講状況はどうだろうか？ トルコでは地域やへき地が広く、家庭医療の存在が不可欠となる。1550万人に対する22の県で、また81のなかで51の

都市で、卒後研修生2・1万人以上が受講した。その結果、家庭医の数は最初4307人(21都市)から2万50人(81都市)に増加し、家庭医3万人を目指している。

この潮流に併せて、トルコ家庭医療認定委員会は06年、知識、技能、態度を加味したコアカリキュラムを発表した。WONCAの助言により、病院でのローテーションに加え、地域における研修が含まれ、ローテーションの期間は1年間という。

**教育病院の視察**

筆者は、イスタンブール中心部にあるタクシム救急病院 (Taksim İlk Yardim Hastanesi) を視察した。公立の教育病院で、すべての科で卒後研修が可能である(右下写真)。

8階建てで、計240人の入院ベッドを備え、地下のフロアは各科外来と救急部門がある。外来患者数は1日に約200人。医師は100人、ナースは70人ほどで、私を案内し説明してくれたのは、卒業3年目のDr. Guven Tidirであった。外科レジデントとして、カリキュラムどおりに次第に難しい手術の術者を務め、研修をこなしている。給料は安い、症例が多くて勉強になり満足しているようだ。

GPやFPについて尋ねると、地域



▲タクシム救急病院 (Taksim İlk Yardim Hastanesi)

では重要だが、都会ではだれもが最初から専門医を受診するため、重要度は低いという。大学における家庭医療講座やFP資格も知っているが、回国で専門科と認められるには時間がかかるだろうとの返事であった。

**おわりに**

WONCAの大会長は、講演の中で、アタテュルクの言葉として、「われわれは真実を追い求め、そして、真実が判明すれば、それを適用するのをためらってはいけない職種の間でなくてはならない」と紹介した。トルコの家

庭医療を若干紹介した本稿が、今後本邦におけるPC医や総合医の養成に参考になれば幸いである。